

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大正大学
設置者名	学校法人大正大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
仏教学部	仏教学科	夜・通信	14			14	13	
文学部	日本文学科	夜・通信				14	13	
	人文学科	夜・通信				14	13	
	歴史学科	夜・通信				14	13	
表現学部	表現文化学科	夜・通信				14	13	
	メディア表現学科	夜・通信				14	13	
人間学部	人間科学科	夜・通信				14	13	
	社会福祉学科	夜・通信				14	13	
臨床心理学部	臨床心理学科	夜・通信				14	13	
地域創生学部	地域創生学科	夜・通信				14	13	
	公共政策学科	夜・通信				14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公表方法：ホームページによる公表 https://www.tais.ac.jp/common/doc/guide/info/course-subject.pdf https://www.tais.ac.jp/guide/info/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大正大学
設置者名	学校法人大正大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法：ホームページによる公表 https://www.tais.ac.jp/common/doc/guide/info/officer-list.pdf https://www.tais.ac.jp/guide/info/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	僧侶	令和6年3月30日 ～令和7年最初の定 時評議員会終結	経営と教学の連携
非常勤	僧侶	令和6年3月30日 ～令和7年最初の定 時評議員会終結	学校法人のブランデ ィング
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大正大学
設置者名	学校法人大正大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書の作成過程 <p>教務課より担当教員へシラバス作成依頼の際、授業の目的・到達目標と DP、評価方法・授業外学修などを詳細に説明した作成要項を配布している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力・編集期間 <p>2024年1月19日(金)～2024年2月29日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスチェック <p>2024年2月11日(日)～2024年2月26日(月)</p> <p>担当の専任教員が、記入内容やシラバス入力状況を確認し、担当教員へ修正依頼を行う。</p> <p>公開日 2024年3月18日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書の公開方法 <p>大正大学ポータルシステム【T-Po】を利用して公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページにて公開</p> <p>https://www.tais.ac.jp/faculty/syllabus/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>科目担当教員に対して、シラバス・講義概要に記載している評価方法に基づいて、成績認定を行うよう成績提出にあたり事前に書面にて通知をしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では平成11年度からGPA=グレード・ポイント・アベレージ(学業平均値)による学業評価システムを併用している。これはアメリカで一般的に採用されているGPAの算出方法を基本としており、日本でこの制度を導入している他大学の基準とほぼ変わらないものとなっている。これによって、他学部・学科の学生との比較が可能となる。この制度導入の理由は、学生の学期または学年等、一定期間の履修と学習の状況を把握することによって、個人別に適切できめ細やかな履修・学習アドバイスが可能にする客観的なデータとなる。</p> <p>具体的には、それぞれの評価に一定のポイントを設定し、不合格科目を含めて履修科目のアベレージを算出する。</p> <p>【計算方法】評価 AA 4.0点 A+ 3.5点 A 3.0点 A- 2.7点 B+ 2.4点 B 2.0点 B- 1.7点 C+ 1.4点 C 1.0点 D 0.0点 Z 0.0点 (AA 合格(再優秀)、極めて優秀な成績、A、A-、A+ 合格(優秀)優秀な成績B+、B、B- 合格(良)受験生の中では平均的な成績、C+、C 合格(可)併記により劣るが、合格に値する成績、D 不合格(不可)合格に達しない Z 不合格(否)評価不能)</p> <p>【算出例】2単位の科目を3科目履修し、成績が<AA・A-・Z>評価の場合のGPAと判定 $GPA = \{AA(4.0) \times \text{単位数}(2) + A-(2.7) \times \text{単位数}(2) + Z(0) \times \text{単位数}(2)\} \div \text{登録総単位数(不合格の科目の単位数も分母に加算)}$ $= (4.0 \times 2 + 2.7 \times 2 + 0 \times 2) \div 6 = 2.23$ 判定【B】</p> <p>詳細については履修要綱、大学ホームページにてGPAを導入している旨、その算出方法を公表している。</p> <p>【令和2年度以降】</p> <p>成績評価基準を下記のとおり変更した。</p> <p>AA (Excellent:秀:4.0点)、A (Very good:優:3.0点)、B (Good:良:2.0点)、C (Pass:可:1.0点)、T (Recognition:認定:-)、D (Failure:不可:0.0点)、Z (No learning:否:0.0点)。</p> <p>AAは、目標を大きく超えて優秀。Aは、目標を超えて優秀。Bは、目標を十分に達成している。Cは、単位を認める最低限の基準に達している。Dは、単位を認める最低限の基準に達していない。Zは、学習行動が見られない。Tは、目標を達しており、本学の授業科目における合格判定(上記AA~Cを除く)及び他大学等による単位認定。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	履修要綱を大学のホームページにて公開し、全学生が閲覧できるようにしている。 https://www.tais.ac.jp/common/doc/guide/info/curriculum_guide_2024.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

大正大学ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

本学の建学の理念は「智慧と慈悲の実践」であり、仏教では自らのためだけでなく、他者の幸せを願って修行する人を菩薩という。本学で学ぶすべての人が菩薩のように物事を正しく認識・判断し、実践・行動する人間となることを本学は求める。また、本学は、Society 5.0 で実現する変化の激しい知識集約型社会を生き抜くための新たな目標として、「新共生主義」及び「地域人スピリット」を掲げ、学際的な研究・学融合型の教育を目指し、この「新共生主義」及び「地域人スピリット」を実現するために、教育ビジョン「4つの人となる－慈悲・自灯明・中道・共生」を規範として示す。

「慈悲」の人となるとは――、

「生きとし生けるものに親愛のこころを持てる人となる」こと。

生きとし生けるものに親愛のこころを保ち続け、心を開き、よりよいコミュニケーションができる。

「自灯明」の人となるとは――、

「真実を探究し、自らを頼りとして生きられる人となる」こと。

自ら「問い」を立て、社会・地域の問題解決のために、さまざまな知識を得て、学融合的な考察ができる。

「中道」の人となるとは――、

「とらわれない心を育て、正しい生き方ができる人となる」こと。

社会・地域に貢献する人材となるために人柄を磨き、かたよりやこだわりから自由になり、さまざまな意見に耳を傾けて行動ができる。

「共生」の人となるとは――、

「共に生き、ともに目標達成の努力ができる人となる」こと。

目標を実現するために挑戦を繰り返す態度と姿勢を育み、自ら「学び」と実践・行動に信念を持ち、ふりかえりを通して行動の改善ができる。

そして、本学は地域主義の立場に立ち、どの学部、学科で学んでいても地域を愛し、生活の基礎となる地域の活性化のためにアントレプレナーシップを発揮し、貢献する「地域人スピリット」を養成する。これらの教育ビジョンに基づき本学では、以下の各資質・能力を総合的に身につけた学生に対して学位を授与するものとする。

知識・技能

①社会においてよりよく生きるための力となる知識や技能を、専門的な知識と実践的な経験の統合によって身につけている。〈自灯明・中道〉

②自らの専門分野とする学問領域の学修内容と研究方法を理解し、現実社会の中で活用できる。〈自灯明・中道〉

思考・判断・表現

③自ら問いを立て、多面的かつ重層的に思考することによって、課題解決への道筋を論理的に探究することができる。〈自灯明・中道〉

④己の立場にとらわれず、意見や価値観の異なる人々の考えを傾聴した上で、自らのそれを再構築し、論理的・創造的に表現することができる。〈中道・自灯明〉

関心・意欲・態度

⑤自立的・自律的な生き方を志向する中で、地域・社会・世界における課題の当事者としての自己を再発見することができる。〈自灯明〉

⑥より良い地域や社会の形成と発展に寄与していくために、利他の精神をもって主体的かつ実践的に学習成果を活かそうとする姿勢を身につけている。〈共生・慈悲〉

⑦他者に対して親愛の情を抱き、互いを尊重しながら、ともに目標を達成しようとする協働性を身につけている。〈慈悲・共生〉

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.tais.ac.jp/faculty/tais_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大正大学
設置者名	学校法人大正大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	公表方法：ホームページによる公表 https://www.tais.ac.jp/guide/info/financial/
収支計算書又は損益計算書	公表方法：ホームページによる公表 https://www.tais.ac.jp/guide/info/financial/
財産目録	公表方法：ホームページによる公表 https://www.tais.ac.jp/guide/info/financial/
事業報告書	公表方法：ホームページによる公表 https://www.tais.ac.jp/guide/info/financial/
監事による監査報告(書)	公表方法：ホームページによる公表 https://www.tais.ac.jp/guide/info/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称：)	対象年度：)
公表方法：	
中長期計画(名称：)	対象年度：)
公表方法：	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：公表方法：ホームページによる公表。学内メーリングリストによる周知。 https://www.tais.ac.jp/guide/estimation/#info01

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法：ホームページによる公表。 https://www.tais.ac.jp/guide/estimation/#info05
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 仏教学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/ ）
（概要） 釈尊の智慧と慈悲の教えを具現化するため、仏教の理想とする人間の生き方を探究し、現代社会が直面する課題に向き合いながら自ら行動できる知性を育む。そして日本人の精神文化の形成に寄与した仏教の思想と信仰、あるいは文芸・美術などについての知見と感性を涵養する。このような学習を通じて、地域社会・国際社会に貢献できる教養を身に付け実践できる人材を養成する。また祖師の教えや教団の歴史を学び、僧侶として生きる目標の確立、教化・儀礼の技能を修得し、仏教指導者として社会に貢献できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学のホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_buddhist_studies/ ）
（概要） 仏教学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学科において学位授与方針を定めています。それは、本学の教育ビジョン・建学の精神「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」（「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる）という言葉の中に、その基本的精神と願いが表現されています。仏教学部におけるさまざまな学びを活かして、より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、主体的かつ実践的に活かそうとする能力・資質を備えた学生に学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学のホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_buddhist_studies/ ）
（概要） 本学では、教育ビジョン「4つの人となる」ために、幅広い教養と学びの技法を身につけるための共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。仏教学部においては、専門的な知識と技能の修得を徹底するため、基礎ゼミナールや専門ゼミナールなど多くの講座で少人数教育を実施しています。さらに個別指導により、各自の関心や疑問を掘り下げ、一人ひとりの資質や能力の向上を図りながら、卒業論文・卒業研究の完成を目指すというカリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学のホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_buddhist_studies/ ）
（概要） 本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。仏教学部においては、新たな知識や他者の意見に触れることを喜びと感じ、多様な価値観を認め、自らの思索を深めようとする、開かれた姿勢をもっている学生、また、社会のさまざまな事象を自らに関わる問題として捉え、自身の学びを地域や社会に活かし、他者ととともに積極的に解決していこうとする意欲をもっている学生を広く求めます。

学部等名 仏教学部仏教学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/ ）
（概要） 釈尊の智慧と慈悲の教えを具現化するため、仏教の理想とする人間の生き方を探究し、現代社会が直面する課題に向き合いながら自ら行動できる知性を育む。そして日本人の精神文化の形成に寄与した仏教の思想と信仰、あるいは文芸・美術などについての知見と感性を涵養する。このような学習を通じて、地域社会・国際社会に貢献できる教養を身に付け実践できる人材を養成する。また祖師の教えや教団の歴史を学び、僧侶として生きる目標の確立、教化・儀礼の技能を修得し、仏教指導者として社会に貢献できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学のホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/buddhist_studies/buddhist_studies/ ）
（概要） 仏教学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、仏教学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。
<u>知識・技能</u> ① 仏教学科の学び（仏教学・宗学・国際教養）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。 ② 仏教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。
<u>思考・判断・表現</u> ③ 仏教学科におけるさまざまな学問的領域について、自らの学びの対象とした研究や方法論を通じて多面的に思考・判断することができる。 ④ 自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、論理的・創造的に表現することができる。 ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。
<u>関心・意欲・態度</u> ⑥ より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、仏教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学のホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/buddhist_studies/buddhist_studies/ ）
（概要） 仏教学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、仏教学コース、宗学コース及び国際教養コースにおいて、以下のカリキュラムを編成します。
<u>教育内容</u> (1) 仏教を中心とした思想・歴史・文化に関わる幅広い知識と研究方法を身につけ、またそれらを現実社会の中で活用できる能力を身につけるために、各学年において、仏教学・宗学・国際教養の諸分野を学ぶ科目を配置します。 仏教学科における専門教育科目は、大きく基礎部門と専門・応用部門に分けられます。
<u>基礎部門</u>

釈尊から日本に至る仏教の歴史と思想の全体像を体系的に把握するための科目と、少人数教育により仏教学・宗学・国際教養それぞれの基礎知識の習得をはかる科目を配置します。

専門・応用部門

- ①仏教学コース 仏教の幅広い知見を得るための科目群を配置します。
- ②宗学コース 各宗派の教学と歴史を知るための科目群を配置するとともに、僧侶として必須の儀礼や実践を習得する法儀部門を配置します。
- ③国際教養コース 仏教と日本文化の魅力を世界に発信できる人材育成のための科目群を配置します。
- ④語学系科目 仏教学・宗学習得に必須である漢文・サンスクリット語等に関する科目を配置、また国際教養には英語力向上を図る科目を配置します。
- ⑤学科共通科目 他者や社会に発信し、現実社会で主体的実践的に活かせる仏教を修得するため、仏教文化に関する科目群や現代社会と仏教の関わりに関する科目群を設置します。
- ⑥専門研究 3・4年次には専門研究科目を設け、自らの問いに多面的・重層的に思考し、解決をはかる研究方法の修得と実践力を養い、その成果は卒業論文・卒業研究として論理的・創造的にひとつの形にまとめあげます。

(2) 多面的に思考判断し、他者や地域社会に向けて論理的・創造的に表現する能力を身につけるために、1年次から4年次にわたって、基礎ゼミナールや専門研究などの科目を設けます。

(3) いずれの科目においても、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を育てることを目的とします。

教育方法

- ①基礎部門では学修内容の振り返りと小テストを実施し、仏教学科の学びの基礎を着実に修得できるようにします。
- ②主体的な学びの力の育成・問題解決のための協働の実践をはかるアクティブラーニングを専門分野科目群で取り入れます。
- ③サービスマーケティング等を通じ、仏教の意義や魅力を社会に表現・発信する能力を養います。
- ④大学外での実習や研修を通じ、主体的実践的な仏教学科の学びを体験し身につけます。
- ⑤基礎ゼミナールや専門研究では少人数教育を実施し、専門的な知識と技能を修得できるようにします。さらに個別指導により、各自の関心疑問の掘り下げと資質・能力の向上を図りながら、卒業論文・卒業研究を完成できるようにします。

評価

- ①教育課程の科目ごとに到達目標を設定し、到達度を試験・論文・発表・実技等の必要な方法によって学修成果を評価します。
- ②4年間の総括的な学習成果である卒業論文・卒業研究に対して、担当教員による評価と口述試験を行い、DPに示された資質・能力の達成状況の評価します。
- ③カリキュラム改善のために、学生の修得状況を学科教員内で情報共有し、アセスメントを実施します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学のホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/buddhist_studies/buddhist_studies/）

(概要) 仏教学科は、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能

①高等学校での教育課程において学習した科目のうち、とくに仏教学科の学び (仏教学・宗学・国際教養) に必要な国語・地理歴史・外国語等について基礎的な知識・技能を修得している。

思考・判断・表現

- ②ものごとを論理的に説明することができる。
③興味や関心のある事柄を、自らの言葉と視点で説明することができる。

関心・意欲・態度

- ④仏教学科の学びに関連する事象に深い関心を持っている。
⑤新たな知識や他者の意見に触れることを喜びと感じ、多様な価値観を認め、自らの思索を深めていこうとする、開かれた姿勢を持っている。
⑥社会のさまざまな事象を自らに関わる問題として捉え、自身の学びを地域や社会に活かし、他者とともに積極的に解決していこうとする意欲を持っている。

学部等名 文学部

教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)

(概要) 文学部は、人類が築き上げてきた知的遺産を学際的・総合的に研究し、現代社会が直面する諸課題の解決に貢献できる人材を養成することを目的とする。そのために文学部では、

- ①日本における文献や文化財などの調査と分析を通じて、専門的知識を修得するとともに、諸外国に対する柔軟で幅広いものの見方
②人類の文化遺産について、言語・思想・文化をキーワードとして、論理的な思考とそれを的確に表現する力量と能力を身に付け、伝統的な文化遺産の理解に基づき、新たな文化を創造し発信し続け、確かな将来を目指せる人間を育成する。

卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_literature/)

(概要) 文学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学科において学位授与方針を定めています。それは、本学の教育ビジョン・建学の精神「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」(「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる) という言葉の中に、その基本的精神と願いが表現されています。課題を積極的に他者と協働しながら解決し、社会に還元する能力・資質を備えた学生に学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_literature/)

(概要) 本学では、教育ビジョン「4つの人となる」ために、幅広い教養と学びの技法を身につけるための共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。

文学部においては、各専門分野の知識・技能を身につけ、生涯学び続けていく意欲と関心を養うために、基礎ゼミナール・専門別のゼミナールを中心としたカリキュラム

を編成しています。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_literature/）</p>
<p>（概要）本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。文学部においては、国語、地理歴史、公民、外国語について高等学校卒業相当の知識と技能を有し、学びを通して社会に積極的に関わっていこうとする意欲がある、資質・能力を備えた学生を求めます。</p>

学部等名 文学部 人文学科
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/）</p>
<p>（概要）文学・言語学・哲学・宗教学・文化人類学などの学問的手法を学際的に用いて、人類の所産であるさまざまな文化を探究する教育と研究を行い、広い知識、柔軟な知的技法、人間としてのあり方や生き方に関する深い洞察力、偏見のない目で現実を理解する力、日本及び世界に通用する豊かな教養とコミュニケーション能力、社会に対する強い責任感を有する人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/humanities/）</p>
<p>（概要）人文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、人文学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。</p>
<p><u>知識・技能</u></p> <p>①哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野に関する深い教養を体系的に身につけている。</p> <p>②哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における研究を通じて、学問の基本的な方法を身につけている。</p>
<p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>③哲学、思想、宗教、文化、言語の学問的領域の分析方法を応用し、多面的かつ国際的に、学際的な視点でものごとをとらえることができる。</p> <p>④立場や見解の異なる者に対しても公平な理解を示し、建設的な議論や判断をすることができる。</p> <p>⑤学問知、実践知を自分のことばで表現し、文章や口頭で他者に伝えることができる。</p> <p>⑥知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。</p>
<p><u>関心・意欲・態度</u></p> <p>⑦哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における学問的経験を活かし、未来において起こる新たな思潮を理解し、つねに自らの学問知を刷新しようとする意欲を有している。</p> <p>⑧自らの能力を社会に還元する意思と、社会のなかで自らを高める意欲を持ち、自ら</p>

<p>の生き方について責任を果たす姿勢を身につけている。</p> <p>⑨コミュニティの重要性を理解し、その発展に貢献する積極性と協調性を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/humanities/）</p>
<p>（概要）人文学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に備えた学生を育成するために、哲学ならびに宗教学を基盤としてさまざまな思想や事象を研究する「哲学・宗教文化コース」、及び、英語力の向上も含め、コミュニケーション能力を涵養し、学際的視点に基づいて多様な文化を多角的に研究する「国際文化コース」において、以下のカリキュラムを編成します。</p> <p>教育内容</p> <p>①知識を身につけ、学問の基本的な方法を修得し、卒業後も続く意欲と関心を養うために、学年にそって、哲学、思想、宗教、文化の諸分野を学ぶ科目を設けます。</p> <p>◆哲学領域においては、西洋哲学ならびに東洋哲学の基本的な流れと主だった哲学者の思想を学び、発展的に美学・芸術論や現代社会論などを学ぶための科目を配置します。</p> <p>◆宗教学領域においては、宗教史、宗教民俗学、宗教社会学、宗教人類学などを幅広く学び、異文化間理解と宗教、生命倫理など、現代的な問題を考察するための科目を配置します。</p> <p>◆文化領域においては、文学、哲学、文化人類学、批評理論を学び、多岐にわたる文化現象を学際的に分析し、議論するための科目を配置します。</p> <p>◆英語コミュニケーション領域においては、国際社会で活躍するのに十分な英語運用力を習得し、言語や英語教育に関する専門的な知見を得るための科目を配置します。</p> <p>②知的好奇心と社会性を身につけ、建設的な議論の方法やプレゼンテーション、論文執筆の技法を修得するために、基礎ゼミならびに課題研究ゼミ、その他のゼミ形式の授業を1年次から4年次にわたって設けます。</p> <p>③いずれの科目においても、多様な価値観を認め、コミュニティの発展に寄与するための姿勢を育てます。</p> <p>教育方法</p> <p>①PBL*の実践：1年次から4年次まで、ゼミをベースとしたPBLの実践で、問題発見力と問題解決力を鍛錬し、仲間とともに学ぶ機会をつくります。（*PBL=Project Based Learning）</p> <p>②チーム・ティーチングの実践と学際的視点の涵養：現代に深く関わる問題をチーム・ティーチングで取り上げ、学際的に考える機会をつくります。</p> <p>③自立学習支援：自主的な研究会やシンポジウムの企画をサポートし、意欲の高い学生がさらに力を伸ばすことのできる環境を整えます。</p> <p>④アクティブ・ラーニング型講義科目：大学教育の一方に少人数ゼミがあれば、もう一方に多数の学生がともに学ぶ講義があり、講義科目においても、部分的にグループワークを取り入れ、発表機会を設けるなどの工夫により、双方向型の授業を展開します。</p> <p>⑤WAC*の実践：人文学を汎用性の高い能力とするために、とくに論文指導に力を入れ、1年生のゼミから論文指導を徹底します。あわせて研究上の倫理性も育みます。（*WAC=Writing Across Curriculum）</p> <p>評価</p> <p>①卒業論文は4年間の集大成と位置づけ、複数教員の口述試験を経て、ルーブリックを用いた合議で評価します。</p>

<p>②DP 達成度を「卒業時アンケート」によって確認し、その結果を教育課程の改善に役立てます。</p> <p>③毎学期、各授業における学生の定性的情報を交換し、個々の問題に対応するとともに、学科の教育課程の改善を図ります。</p> <p>④本学科の学びの特徴に応じたカリキュラムアセスメントを実施し、カリキュラムの中間評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/humanities/）</p>
<p>（概要）人文学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に備えた学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>①高等学校で履修する教科のなかで、とくに国語、地理歴史、公民、外国語について教育内容を理解し、哲学、思想、宗教、文化の諸分野の専門的な学習に必要な高等学校卒業相当の知識と技能を身につけている。</p> <p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>②ものごとを順序立てて論理的に考えることができる。</p> <p>③文章や口頭で、自身の考えをわかりやすく述べることができる。</p> <p><u>関心・意欲・態度</u></p> <p>④文化や歴史、人間の生活にかかわるさまざまな問題に対して深い関心を持っている。</p> <p>⑤高度な読解力や分析力を身につけることに意欲がある。</p> <p>⑥自らの学びを通して社会に積極的に関わっていこうとする意欲がある。</p> <p>⑦他者の立場に立ってものごとを考え、行動する態度を身につけている。</p>

<p>学部等名 文学部 日本文学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/）</p>
<p>（概要）日本文化の中から、文学・語学とその隣接の領域を中心に教育研究を行い、それらの成果である知識や教養をもって地域社会の文化向上や活性化に貢献できる人材を養成する。特に日本文学と日本語学に関する専門的知識を幅広く習得し、それらの知識を運用して実社会で円滑なコミュニケーションができるばかりでなく、日本文化に裏打ちされた豊かな感性をもって思考と行動ができる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/japanese_literature/）</p>
<p>（概要）日本文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、日本文学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>①構造的知識（総論）：日本語学・日本文学の学問領域を理解し、また日本語日本文学の発生から現在までの歴史的展開を理解しその特徴を説明できる。</p> <p>②構造的知識（各論）：日本語日本文学の専門分野に関する知識を有し説明できる。</p> <p>③読解力：日本の古代から現代までの書き言葉・話し言葉で表現された言説の内容を客観的に理解し解釈できる。</p>

④情報リテラシー：日本語日本文学の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し活用することができる。

思考・判断・表現

⑤批判的創造的思考力：日本語日本文学の事象に問題意識を持ち、その本質を洞察することができる。

⑥文章作成力：自らの考えを適切な語彙を用いて論理的に文章化できる。

⑦口頭伝達力：相手の話を的確に聞き取り、自分の考えや意見を相手に明確に伝えることができる。

⑧知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

⑨共同研究への参画：共同研究やグループワークにおいて有効な役割を担い、参加しようとする意欲、姿勢を有している。

⑩生涯学習に対する基盤と能力：生涯学び続けていくための問題意識を有している。また、地域や社会が抱える課題への持続的な関心とともに、その課題を積極的に解決するための技能を身につけようとする意欲を持っている。

⑪異文化・他者の尊重と理解：異文化や異質な存在を謙虚に理解し尊重する態度を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/japanese_literature/）

（概要）日本文学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

①日本語学・日本文学の学問領域を理解し、日本語日本文学の発生から現在までの歴史的展開についての知識を身につけるため、1・2年生を対象とした基礎講義科目を設けます。

②各専門分野の知識・技能を身につけるため、2年生より上級生を対象とした専門講義科目を設けます。

③基礎的知識とともに、基礎的な読解力、情報リテラシー、批判的創造的思考力、文章作成力、口頭伝達力を身につけるため、1・2年生を対象とした基礎ゼミナールを設けます。

④専門的知識とともに、発展的な読解力、情報リテラシー、批判的創造的思考力、文章作成力、口頭伝達力を身につけるため、3・4年生を対象とした専門ゼミナールを設けます。

⑤すべての科目は、異文化・他者を尊重する態度を育て、社会・地域への関心を持ち続けながら生涯学び続けていくための問題意識を育てる内容とします。

⑥教職課程（中学高等学校国語科）の単位となる科目を設置します。また、すべての科目は国語科教員を養成するために十分な水準とします。

教育方法

①基礎ゼミナール・専門ゼミナールは、少人数とし、学生の調査発表、共同研究、討議を中心に行います。

②講義科目においても、アクティブラーニング、サービスマーケティング、ピアインスト

<p>ラクションを適宜取り入れます。</p> <p><u>評価</u></p> <p>①4年間の総括的な学習成果として卒業論文を課し、主査・副査による口述試問を含め、DPの修得状況を総合的に評価します。</p> <p>②カリキュラムの改善のため、各学期の学生の成績及び履修状況、卒業時の学生自己評価アンケート等を踏まえた、学科教員によるカリキュラム検討会議によって、カリキュラムアセスメントを実施します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/japanese_literature/)</p>
<p>（概要）日本文学は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>①国語、地理歴史、公民、外国語について高等学校卒業相当の知識と技能を有している。特に国語について十分な知識と読解力を有している。</p> <p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>②問題意識を持ち、その問題解決のために、他者の意見を聞きながら、物事を順序立てて考え、書き、話すことができる。</p> <p><u>関心・意欲・態度</u></p> <p>③異文化や異質な存在を謙虚に理解し尊重する態度を身につけようとする意欲を持っている。</p> <p>④日本文学・日本語・日本文化にかかわる様々な問題に対して深い関心を持っている。</p> <p>⑤学びを通して自己を研鑽し、地域や社会に積極的に関わっていこうとする意欲を持っている。</p> <p>⑥グループワークに積極的に参加する意欲を持っている。</p>
<p>学部等名 文学部 歴史学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)</p>
<p>（概要）日本、東洋の過去における人々の営為の所産である史料（資料）や文化財を対象に、それらを実証的、客観的に考察、分析する歴史学の学習を通じて、歴史的視点・思考方法によって現代社会を分析、理解できる能力を獲得して、豊かな社会生活を創出することのできる者の育成を目指し、教員、社会教育、学芸員、出版、情報関係等の従事者を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/history/)</p>
<p>（概要）歴史学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、歴史学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>①歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけてい</p>

る。

②日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。

思考・判断・表現

③自らの学びの対象として設定した問題について、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域の研究方法を通じて解決することができる。

④自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。

⑤知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

⑥日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会人としての責任や役割を主体的に果たそうとする姿勢を身につけている。

⑦自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題を他者と協働しながら解決しようとする意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/history/)

（概要）歴史学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、日本史コース、東洋史コース及び文化財・考古学コースにおいて、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

①各専門分野における知識を体系的に修得するために、基礎部門の学科共通科目、応用部門の特講科目などを系統的に配置します。

②各専門分野における研究方法の理解と実践を進めるため、専門別のゼミナールの他、選択科目として基礎研究科目などを配置します。

教育方法

①アクティブラーニング：主体的なものごとに向かう姿勢を身につけ、他者との協働によって問題を解決する能力を育成するために、アクティブラーニングなどを取り入れ、自ら発表したりディスカッションをする機会を設けます。

②少人数教育：専門教育においては、歴史についての専門的な知識や実証的な研究方法を身につけるために、基礎ゼミナールや専門ゼミナールなどの少人数からなる集団を組織し、学習活動を進めます。

③実習・フィールドワーク：自らの視野を広げ、情報収集や整理の技能を高めるために、地域社会の歴史的資源を活用し、実習やフィールドワークなどの学習機会を提供します。

④卒業論文：卒業論文を全学科生に課すことにより、各自が研究目標を定め、学習成果を論理的・創造的に表現する機会をつくります。

評価

①4年間の総括的な学習成果については、全学科生に課せられる卒業論文に対して、担当教員による評価と口述試験を行い、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を評価します。

②卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため、卒論ループリックや面接調査などにより学生生活全般に対する総括的評価を行い、カリキュラムのPDCAサイクルを推進します。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/literature/history/）</p>
<p>（概要）歴史学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>①高等学校で履修する地理歴史の内容を十分に理解している。 ②歴史学科の学びに必要な基礎的な知識・技能を有している。</p> <p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>③物事を順序立てて考えることができる。 ④多様な考え方を整理して説明することができる。</p> <p><u>関心・意欲・態度</u></p> <p>⑤歴史や文化に関することに幅広く深い関心を持っている。 ⑥読む、聞く、書く、話す能力のさらなる向上やわかりやすい表現方法の習得に意欲を持っている。 ⑦自らの学びを通して、地域や社会に積極的に関わっていかこうとする意欲を持っている。 ⑧研究・調査や実習などを通じて、他者への配慮を身につけようとする意欲を持っている。</p>

<p>学部等名 表現学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/）</p>
<p>（概要）近代のアカデミズムでは、《思考》と《表現》とは分け隔てられ、《表現》より《思考》が重視されてきた。「哲学思想」に対する「文章・筆記」、「文学研究」に対する「創作」、「英文学」に対する「運用英語」、「美学芸術」に対する「映像制作」「書道」など、表現学部がかかげる学問内容は、すべて《表現形式》によってくられる。《表現形式》なき《思考》は存在し得ない。《思考》は《表現》の過程から生まれるものであり、《表現》は《思考》を強化するものなのである。表現学部の目指す教育とは、</p> <p>①独立した個人としてふるまえる社会有為の人材を養成する。 ②《思考》と《表現》とを総合的プロセスととらえる、プロデューサー志向の人間を育成する。 ③《思考》に裏うちされた《表現》を他人に示して臆さない社会人を世に送り出す。 ④文章、書、編集、創作、英語運用、映像制作、のプロフェッショナルを育てることである。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_communication_culture/）</p>

<p>(概要) 表現学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学科において学位授与方針を定めています。このことは、本学の教育ビジョン・建学の精神である「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」(「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる)という言葉の中にその基本的精神および願いとして表現されています。課題を積極的に他者と協働しながら解決し、社会に還元する能力・資質を備えた学生に学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_communication_culture/)</p>
<p>(概要) 本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を実現するために、幅広い教養と学びの技法を身につけるための共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。</p> <p>表現学部においては現代的・社会的ニーズに対応した表現の各領域の専門的知識や技能を身につけさせることも目標としています。みずからの内にある創作意欲や表現意欲を形にするための手段(技術)を身につけると同時に、その裏にある理論をしっかりと学びとることができ、その結果として社会貢献できるような人物を育成することを目標としています。各専門分野の知識・技能を身につけ、生涯学び続けていく意欲と関心を養うために、ワークショップや専門別のゼミナールを中心としたカリキュラム編成を行っています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_communication_culture/)</p>
<p>(概要) 本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。</p> <p>表現学部においては、国語、地理歴史、公民、外国語について高等学校卒業相当の知識と技能を有し、学びを通して社会に積極的に関わっていこうとする意欲がある、資質・能力を備えた学生を求めます。</p>

<p>学部等名 表現学部 メディア表現学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)</p>
<p>(概要) メディア表現学科が目指すのは、「メディアの使命を俯瞰的に把握し、情報の受け手を斟酌した表現物創造の重要性を理解する人材の養成」と「表現力向上に必要な知見の蓄積に貪欲な教養人の育成」である。すなわち、技術主導ではなく、エンターテインメント領域においてメディア全般に対応する能力を醸成することを志向する。</p> <p>メディア表現学科において養成する人材は、放送等のメディア業界、映画等の映像製作関連業界などに加え、マーケティング、広告、広報、コンテンツ系ビジネス関係業界などエンターテインメントに関する広範囲な領域において、豊かな人文系教養を基盤とするクリエイティブな感性と技能を活かして活躍することを想定している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/communication_and_culture/broadcasting_and_imaging_arts/)</p>

(概要) メディア表現学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、メディア表現学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ①情報社会／現代社会の機構 (mechanism) を高度に分析し、自己の表現技能において活用できる。
- ②情報社会／現代社会の機能 (function) を知り、自己の表現技能において活用できる。
- ③情報社会／現代社会における組織 (system) を高度に分析し、自己の表現技能において活用できる。
- ④専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能を駆使して総合的に自分を表現する方法を持ち、社会へ向けて自らの考えを発信できる。
- ⑤自ら設定した表現課題 (放送・映像メディア、アート&エンターテインメントワーク) の属する知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。

思考・判断・表現

- ⑥ハードウェア／ソフトウェア、ファインアート／エンターテインメント、メインカルチャー／サブカルチャーなど従来の二項対立を無批判に受け入れることなく、問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。
- ⑦他者との違いを認めて多様な価値観を理解し、自らの意見を論理的・創造的に再構築して社会一般に伝達することができる。
- ⑧メディアリテラシーとエシカルに関する知識を基準に、コミュニケーション・情報発信ができる。
- ⑨知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑かつ多様な現代社会の課題解決に取り組むことができる。

関心・意欲・態度

- ⑩デジタル時代において必要不可欠とされる読解力、柔軟な思考力、コミュニケーション力の向上に対して貪欲に取り組む姿勢を堅持できる。
- ⑪日常生活 (自らの身体を通じた世界との接触) とヴァーチャル生活 (メディアを通じた世界との接触) との二元的認識が所与の条件となった現代社会において、片方に偏することなく中道精神を貫くことができる。自らの作品や表現を社会の発展に活かすためのオペレーションを身につけている。
- ⑫他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターや創造をプロデュースする立場の個性を尊重し、深く理解したうえで正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。
- ⑬他者と協働しながら作品を創造する喜びや有用性を知悉しており、共同作品を制作する意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/communication_and_culture/broadcasting_and_imaging_arts/)

(概要) メディア表現学科は、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

- ①状況に応じて迅速かつ的確な判断及び行動がとれる学生を社会に送り出すために、全カリキュラムの4分の1を超え、3分の1を下回る範囲で実習時間を設定する。学

生が自らの関心に合わせて主体的に内容を選択し、本学の建学の理念のひとつである智慧の実践を実現するための実習とする。

②学生が必要に応じて主体的にプロジェクトの運営組織を構築し、適性などを見極めながら役割分担を決め、到達目標の達成へ試行錯誤を繰り返す PBL (Project-based Learning) を実施する。

③初年次教育において、学生のニーズにあわせた主体的な学びをサポートするために、基礎科目にふさわしい内容の科目（学科が網羅する表現手法の全体像の把握、自己肯定力を高めるためのセルフマネジメント、情報発信者としての基本的倫理観、グループマネジメント能力の涵養等）を配置する。

④卒業後の進路を見据え、自らの専門分野における知識・技能を体系的に修得するとともに研究方法の理解と実践を進める専門教育を徹底する。コースの区分にとらわれず、学生ひとりひとりのニーズに合わせた自由な履修構成を可能とする。

⑤専門性向上に資する単科科目を多数設置する。これらの科目については、学生のニーズをきめ細やかに把握した上で、これに応じて科目のブラッシュアップを続けるものとする。

⑥演習・実習を中心とした専門教育を実施する。2年次はワークショップ、3・4年次に専門ゼミナールとし、1週間に複数時限（原則として3限連続）にわたる科目を設ける。

⑦実践を通して主体的に情報発信できる技術を身につけられるよう、講義に加え、実習やコンテンツ制作・発表、プレゼンテーションも軸としたカリキュラムを編成する。インターンシップなど外部団体との連携を通じて、実際の仕事現場に立つ就業体験の機会も設ける。

教育方法

①共通教育のみならず、専門教育でもアクティブ・ラーニングをメインとし、他者との協働を通じて問題解決に取り組み、発表する機会を設ける。

②専門的な知識や技能を確実に身につけるために、学生と教員の距離の近さを意識した少人数での学習を重視し、ワークショップやフィールドワークなどを進める。卒業論文あるいは卒業制作を全学生に課すことにより、学修成果を論理的・創造的に表現し、自らの達成状況を確認する機会も設ける。

③学生同士が互いの作品やプレゼンテーションをめぐって意見交換し、批評し合う機会（検証・批評の場）を科目ごとに設ける。作品批評や質疑応答、スピーチコミュニケーション、合評会を行うことで互いを高め合い、個々の学修進度の確認やパフォーマンス改善等につなげることを可能とする。

④毎年期末に成果を社会へ発信する機会（成果報告書／報告会）を設ける。自らの作品に対する社会からの率直な評価を受けることにより、履修者の精神的成長をもたらす場として効果的に機能させる。

評価

①4年間の総括的な学修成果については、全学生に課される卒業論文あるいは卒業研究・卒業制作とその発表を対象に担当教員が評定と口述試験を行い、DPで示された資質・能力の達成状況の評価する。

②作品づくりや表現発信については、教員による評価及び改善点の指摘に加え、学生間での相互評価も行う。成績をつけて終わるのではなく、教員と学生の話し合いを通じ、学生の成長に向けた適切なロードマップの作成と見直しをPDCAサイクルによって実施する。

③成績評価については、学生からの問い合わせに常時対応し、基準も開示する。

④学部教育に関しては、教員FDと学生希望調査を通じたカリキュラムアセスメントを実施して教育課程の見直しを図り、継続的に改善を行う。

<p>⑤卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため、質問紙法や面接調査法を用いて学生生活全般に対する総括的評価を行い、KGI（目標達成指標）に基づくカリキュラムのPDCAサイクルを推進する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/communication_and_culture/broadcasting_and_imaging_arts/)</p>
<p>（概要）メディア表現学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した能力・資質を総合的に備えた学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>①学科での学びに必要な基礎知識を有している。 ②高等学校の教育課程で履修する科目の内容を理解し、卒業相当の知識を修得している。</p> <p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>③身近な問題にかぎらず国内外の政治、経済、文化、SDGs などあらゆる領域の事象に深い関心を抱き、自身の興味の有り様を自らの言葉で筋道立てて説明又は表現することができる。 ④多様な考え方を自分なりに整理し、考察することができる。</p> <p><u>関心・意欲・態度</u></p> <p>⑤創造やプロデュースへの憧れを持ち、表現することに強い意欲を持っている。 ⑥「読む・書く・話す・聞く」能力の向上や、他者にわかりやすく伝えるための表現方法の習得に意欲を持っている。 ⑦様々な意見や価値観を受け入れ、配慮ある行動をしようという信念を持っている。 ⑧学科での知識や経験を生かし、社会や地域に積極的に貢献しようという意欲を持っている。 ⑨伝統的メディアや新興メディアなど多様な媒体が発信するニュース・表現に対して積極的に接し、洞察力を高めて真價を見極めようとする姿勢を持っている。</p>

<p>学部等名 表現学部 表現文化学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)</p>
<p>（概要）表現のプロセスには、思考がある。表現文化学科では、自ら考え、その考えを形に変えるまでを自らプロデュースできる、新しい《自作自演》型人間を育成する。自ら全体の計画を立て、そのプロセスを見渡し、達成することのできる人間を社会に送り出すことこそ、表現文化学科の使命である。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/communication_and_culture/communication_and_culture/)</p>
<p>（概要）表現文化学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、表現文化学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>①情報社会/現代社会の機構 (mechanism) を高度に分析、自己の表現技能において活用できる。</p>

- ②情報社会/現代社会の機能(function)を知り、自己の表現技能において活用できる。
- ③情報社会/現代社会における組織(system)を高度に分析、組織を活用した表現技能を有している。
- ④専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能により、総合的に自分を表現する方法を持ち、社会に向けて、自らの考えを発信できる。
- ⑤自ら設定した表現課題(クリエイティブライティング、情報文化デザイン、街文化プランニング〈ライフデザイン〉)の知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。

思考・判断・表現

- ⑥ハードウェア/ソフトウェア、ファインアート/エンターテインメント、メインカルチャー/サブカルチャー、純文学/大衆文芸、など従来の二項対立を無批判に受け入れることなく、現代の動向への確かな認識を踏まえた上で、問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。
- ⑦多様な価値観を理解し、自らの意見を、論理的・創造的に再構築、社会一般に伝達することができる。
- ⑧メディアリテラシーと倫理に関する知識を基準にして、コミュニケーション・情報発信できる。
- ⑨知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑かつ多様な現代社会の課題に取り組むことができる。

関心・意欲・態度

- ⑩日常生活【自らの身体を通じての世界との接触】とヴァーチャル生活【メディアを通じての世界との接触】との二元的認識が所与の条件となった現代社会において、片方に偏することなく中道精神を貫くことができる。
- ⑪自らの作品や表現をいかにデザインし、社会の発展に活かすためのオペレーションを身につけている。
- ⑫他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターの個性を尊重する態度とともに、深く理解した上で正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。
- ⑬他者と協働しながら作品を創造することの喜びや有用性を知悉しており、共同作品を作成する意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/communication_and_culture/communication_and_culture/）

（概要）表現文化学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

- ①状況に応じた的確な判断と行動がとれる学生を社会に送り出すために、全カリキュラムの4分の1以上、3分の1以下の実習時間を設定している。学生が自らの関心に合わせて、主体的に実習内容を選択し、本学の建学の理念のひとつである智慧の実践を実現するための実習である。
- ②学生が必要に応じて主体的にプロジェクトの運営組織を構築し、適性などを見極めながら役割分担を決め、到達目標の達成へ試行錯誤を繰り返すPBL(Project-based Learning)を実施する。
- ③初年次教育において学生のニーズにあわせた主体的な学びをサポートするために、基礎科目にふさわしい内容の科目(学科が網羅する表現手法の全体像の把握、自己肯定

力を高めるためのセルフマネジメント、情報発信者としての基本的倫理観、グループマネジメント能力の涵養等)を配置する。

④卒業後の進路を見据え、自らの専門分野における知識・技能を体系的に修得するとともに研究方法の理解と実践を進める専門教育を徹底する。コースの区分にとらわれず、学生ひとりひとりのニーズに合わせた自由な履修構成を可能とする。

⑤専門性向上に資する単科科目を多数設置する。これらの科目については、学生のニーズをきめ細やかに把握した上で、これに応じて科目をブラッシュアップし続けるものとする。

⑥演習・実習を中心とした専門教育を実施する。2年次は、ワークショップ、3年次・4年次に専門ゼミナールと、1週間に複数時限(基本は3限連続)にわたる科目を設ける。

⑦実践を通して主体的に情報発信できる技術を実践的に身につけられるように、講義に加え、実習やコンテンツ制作、発表、プレゼンテーションも軸としたカリキュラムを編成する。インターンシップなど外部団体との連携を通じて、実際の仕事現場に立つ就業体験の機会も設ける。

教育方法

①共通教育のみならず、専門教育においても、アクティブラーニングをメインとし、他者との協働によって問題解決に取り組み、発表する機会を設けている。

②専門的な知識や技能を身につけるために、学生と教員の距離の近さを意識した少人数での学習を重視し、ワークショップやフィールドワークなどを進める。卒業論文あるいは卒業制作を全学生に課すことにより、学習成果を論理的・創造的に表現し、自らの達成を確認する機会を設ける。

③学生同士が互いの作品やプレゼンテーションをめぐって意見交換し、批評し合う機会(検証・批評の場)を科目ごとに設けている。作品批評や、プレゼンテーションと質疑応答、スピーチコミュニケーション、合評会を行うことで、互いを高め合い、個々の学修進捗の確認やパフォーマンス改善等につなげることを可能とする。

④毎年期末に成果を社会に発信する機会(成果報告書/報告会)を設ける。自らの作品に対する社会からの率直な評価を受けることにより、履修者の精神的成長をうながす場として効果的に機能させる。

評価

①4年間の総括的な学習成果については、全学生に課される卒業論文あるいは卒業研究・卒業制作とその発表を対象に担当教員が評価と口述試験を行い、DPで示された資質・能力の達成状況を評価する。

②作品づくりや表現発信については、教員による評価及び改善点の指摘に加え、学生間での相互評価を行う。成績をつけて終わるのではなく、教員と学生の話し合いを通じ、学生の成長に向けた適切なロードマップの作成と見直しを、PDCAサイクルによって実施する。

③成績評価については、学生からの問い合わせに常時対応し、基準も開示する。

④学部教育の改善については、教員FDと学生希望調査を通じて、カリキュラムアセスメントを実施して教育課程の見直しを図り、継続的に改善を行う。

⑤卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため、質問紙法や面接調査法を用いて学生生活全般に対する総括的評価を行い、KGI(目標達成指標)をもとにカリキュラムのPDCAサイクルを推進する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:大学ホームページにて公開)

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/communication_and_culture/communication_and_culture/

(概要) 表現文化学科は、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能

- ①学科の学びに必要な基礎的な知識を有している。
- ②高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、外国語、数学の内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を修得している。

思考・判断・表現

- ③表現文化に関連する事象に深い関心を持ち、高等学校までに学んだ知識・経験を踏まえ、自身の興味関心の有り様を、自らの言葉と視点で順序だてて説明することができる。または表現することができる。
- ④文化、SDGs などを含めた文化の在り様に関心を持ち、多様な考え方を自分なりに整理し考察することができる。

関心・意欲・態度

- ⑤クリエイターへのあこがれを持ち、表現することに強い意欲を持っている。
- ⑥読む、書く、話す、聞く能力の向上や他者に伝わる表現方法の習得に意欲を持っている。
- ⑦自分だけではなく他者の立場に立って物事を考え、配慮ある行動をする姿勢を持っている。
- ⑧自らの学びを通して、地域や社会に積極的に関わろうという意欲を持っている。
- ⑨文化や歴史、現代の生活、経済、国際社会にかかわる様々な問題に対して深い関心を持っている。
- ⑩文字メディア、映像、デジタルメディア、WWW など多様なメディアから発信されるニュース・表現に積極的に接し、自分なりの見解を持つようとする意欲を持っている。

学部等名 臨床心理学部

教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて
https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)

(概要) 臨床心理学部では、心理学・臨床心理学の基礎的知見に基づいて人間の多様なあり方を理解し、周囲と円滑なコミュニケーションを形成しながら、心理専門職あるいはさらに幅広い領域で社会に貢献できる人材を養成する。このため、公認心理師等の専門職に必要とされる基礎知識と技能を修得させるとともに、現代社会における広範な援助課題と心理援助の方法を理解して諸課題に取り組む実践能力を身につけた人材を育成する。

臨床心理学部において養成する人材は、公認心理師・臨床心理士 (大学院進学) といった心理専門職として、あるいは福祉施設や医療施設職員、公務員 (法務技官、法務教官、家庭裁判所調査官、児童相談所職員) として培った技能を活かして活躍するほか、一般企業において人と接する仕事に携わるなど、周囲との円滑なコミュニケーション形成を基礎として幅広い業務に携わることを想定している。

卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/human_studies/clinical_psychology/)

(概要) 臨床心理学部は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、臨床心理学の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ①臨床心理学の各専門領域における諸理論の基本と核心を理解している。
- ②臨床心理学の実践的な技法や基本的な研究方法を身に付け、実社会の中で活用できる。

思考・判断・表現

- ③客観性を重視する科学的視点と共感性を軸とする臨床的視点の両方にに基づき、課題解決への道筋を多面的かつ重層的に探究することができる。
- ④多様な意見を踏まえて、自らの依拠する前提や根拠をも問い直しつつ、論理的に順序立てて思考することができる。
- ⑤専門文献を精読し、自らの問題意識や考察を的確に表現することができる。
- ⑥知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑦互いの個性や多様な価値観を尊重する開かれた態度をもち、課題解決に向けて他者と積極的に協働する姿勢を有している。
- ⑧心理臨床実践の学びを通して、責任ある社会人として行動する倫理的態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/human_studies/clinical_psychology/）

(概要) 臨床心理学部は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

- ①心理学の諸分野及び臨床心理学の概論的な知識と心理支援の基礎知識を学ぶため、「基礎部門」の科目を設定する。
- ②質・量の両側面から研究を遂行できるようになるために、科学的視点と研究論文の書き方を学ぶ「調査・研究法部門」の科目を設定する。
- ③特定のテーマについて専門文献を精読し、個人発表やグループ発表、討論を中心に主体的・相互的に学びを深めていく「ゼミナール部門」の科目を設定する。
- ④現場における心理支援について実践的に学ぶために「演習・実習部門」の科目を設定する。
- ⑤心理学の諸分野及び臨床心理学の各専門領域の知識をさらに深く学ぶために「関連領域部門」の科目を設定する。
- ⑥心理専門職に求められる心理支援の技法や知識をさらに深く学ぶため、「応用部門」を設定する。
- ⑦公認心理師国家試験の受験資格を得るために大学で修めることが必要な指定科目を軸として、関連法規を学ぶ科目や演習・実習形式の実践的な科目を揃えた「心理専門職養成プログラム」を設ける。心理専門職に必要な臨床力を鍛えるプログラムであり、プログラム履修希望者に対しては3年進級時に選抜を行うものとする。学外実習80時間以上を通して、心理支援の現場を経験するプログラムとなる。

⑧生涯の生き方を自らデザインし、マネジメントする新しい発想力を鍛えるための「ライフキャリア・マネジメント・プログラム」を設ける。臨床心理学の知見は、困難に直面する人を支援するためばかりでなく、幅広い人々がより豊かで健康な人生を歩むための知恵を多く含んでいる。人生 100 年時代といわれる今日、多様性に満ちた現代人の一生を、誰もが直面する課題であるライフキャリア（生涯を通じた生き方）という視点でとらえ、実社会の中で多くの人と助け合い、社会に貢献することのできる人間力を身につける。

⑨以上の教育を通じ、臨床心理学部で学ぶことにより、アカデミック・スキルとクリティカル・シンキングを修得するだけでなく、科学者・実践者モデルの視点に立ち、課題解決に向けて他者と積極的に協働する姿勢や、責任ある社会人として行動する倫理的態度を身につけることを目指す。

教育方法

①基礎ゼミナールと専門ゼミナールは、少人数で特定のテーマについて専門文献を精読し、個人発表やグループ発表、討論を中心として主体的・相互的に学びを深める形式で行う。専門ゼミナールは3・4年生合同で行い、2年間をかけて卒業論文・卒業研究に取り組む。各自の学習状況について教員がきめ細かく把握する観点から、ゼミ担当教員が担任となって個別に必要なサポートを提供する。

②基礎知識を学ぶ講義形式の科目では、講義内容を確実に習得するために、繰り返し視聴できるオンデマンド動画やリアクションフォームの活用などを通じて、講義内容に学生の質問を反映させながら双方向型に近い授業を行う。

③本学における臨床心理教育の伝統と強みを活かし、演習・実習形式による体験型の授業を多く実施する。心理検査や傾聴技法を体験しながら習得する科目、心理学実験や心理調査の結果を分析するために統計ソフトを操作する科目、学外で長期間にわたって実習する科目などを設定し、より実践的な技能、判断、倫理観などの深い理解を目指す。反転授業やグループ作業なども数多く取り入れ、学生相互の主体的な学びを促進する。なお、講義形式の科目でも、頻繁にグループ・ディスカッションを行う。

評価

①4年間の学習の総括として卒業論文・卒業研究に取り組み、その成果については主査・副査を中心とする口頭試問によって評価する。また、学生自身によるルーブリック評価も実施する。

②講義科目においては、期末テストだけでなく、小テストや小レポートの活用により複数の基準を用いて知識の習得状況や学習成果を総合的に評価する。

③学外実習の評価については、毎回提出される実習活動記録の内容、実習先の実習指導講師の評価、実習報告会での報告内容を含めて総合的に評価する。また、学生自身によるルーブリック評価も実施する。

④カリキュラムアセスメント及びカリキュラム改善のため、学生や実習先の実習指導講師にアンケート調査を実施し、教育内容や教育方法の改善に取り組む。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/human_studies/clinical_psychology/)

（概要）臨床心理学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能

①臨床心理学部の教育内容を理解するために必要となる高等学校卒業相当の知識・技能を修得しており、高等教育を受けることができる学力が備わっている。

②高等学校での学習や諸活動において課題や困難に向き合い、解決のための試行錯誤を通して得た経験を有している。

思考・判断・表現

③高等学校までに得た知識・経験を臨床心理学部の学びに結びつけて説明することができる。

④自身の興味関心について、自らの視点と言葉で順序立てて説明することができる。

関心・意欲・態度

⑤新たな知識や他者の意見に触れることに喜びを感じることができる。

⑥価値の多様性に触れたとき、自らの意見を見直す開かれた姿勢を持っている。

⑦社会の様々な事象を自らの問題として捉え、他者と協力して積極的に課題解決する意欲を持っている。

学部等名 臨床心理学部 臨床心理学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて
https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/）

（概要）臨床心理学科では、心理学・臨床心理学の基礎的知見に基づいて人間の多様なあり方を理解し、周囲と円滑なコミュニケーションを形成しながら、心理専門職あるいはさらに幅広い領域で社会に貢献できる人材を養成する。このため、公認心理師等の専門職に必要とされる基礎知識と技能を修得させるとともに、現代社会における広範な援助課題と心理援助の方法を理解して諸課題に取り組む実践能力を身につけた人材を育成する。

臨床心理学科において養成する人材は、公認心理師・臨床心理士（大学院進学）といった心理専門職として、あるいは福祉施設や医療施設職員、公務員（法務技官、法務教官、家庭裁判所調査官、児童相談所職員）として培った技能を活かして活躍するほか、一般企業において人と接する仕事に携わるなど、周囲との円滑なコミュニケーション形成を基礎として幅広い業務に携わることを想定している。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/human_studies/clinical_psychology/）

（概要）臨床心理学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、臨床心理学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

①臨床心理学の各専門領域における諸理論の基本と核心を理解している。

②臨床心理学の実践的な技法や基本的な研究方法を身に付け、実社会の中で活用できる。

思考・判断・表現

③客観性を重視する科学的視点と共感性を軸とする臨床的視点の両方に基づき、課題解決への道筋を多面的かつ重層的に探究することができる。

④多様な意見を踏まえて、自らの依拠する前提や根拠をも問い直しつつ、論理的に順序立てて思考することができる。

⑤専門文献を精読し、自らの問題意識や考察を的確に表現することができる。

⑥知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑦互いの個性や多様な価値観を尊重する開かれた態度をもち、課題解決に向けて他者と積極的に協働する姿勢を有している。
- ⑧心理臨床実践の学びを通して、責任ある社会人として行動する倫理的態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/human_studies/clinical_psychology/）

（概要）臨床心理学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

- ①心理学の諸分野及び臨床心理学の概論的な知識と心理支援の基礎知識を学ぶため、「基礎部門」の科目を設定する。
- ②質・量の両側面から研究を遂行できるようになるために、科学的視点と研究論文の書き方を学ぶ「調査・研究法部門」の科目を設定する。
- ③特定のテーマについて専門文献を精読し、個人発表やグループ発表、討論を中心に主体的・相互的に学びを深めていく「ゼミナール部門」の科目を設定する。
- ④現場における心理支援について実践的に学ぶために「演習・実習部門」の科目を設定する。
- ⑤心理学の諸分野及び臨床心理学の各専門領域の知識をさらに深く学ぶために「関連領域部門」の科目を設定する。
- ⑥心理専門職に求められる心理支援の技法や知識をさらに深く学ぶため、「応用部門」を設定する。
- ⑦公認心理師国家試験の受験資格を得るために大学で修めることが必要な指定科目を軸として、関連法規を学ぶ科目や演習・実習形式の実践的な科目を揃えた「心理専門職養成プログラム」を設ける。心理専門職に必要な臨床力を鍛えるプログラムであり、プログラム履修希望者に対しては3年進級時に選抜を行うものとする。学外実習80時間以上を通して、心理支援の現場を経験するプログラムとなる。
- ⑧生涯の生き方を自らデザインし、マネジメントする新しい発想力を鍛えるための「ライフキャリア・マネジメント・プログラム」を設ける。臨床心理学の知見は、困難に直面する人を支援するためばかりでなく、幅広い人々がより豊かで健康な人生を歩むための知恵を多く含んでいる。人生100年時代といわれる今日、多様性に満ちた現代人の一生を、誰もが直面する課題であるライフキャリア（生涯を通じた生き方）という視点でとらえ、実社会の中で多くの人と助け合い、社会に貢献することのできる人間力を身につける。
- ⑨以上の教育を通じ、臨床心理学部で学ぶことにより、アカデミック・スキルとクリティカル・シンキングを修得するだけでなく、科学者・実践者モデルの視点に立ち、課題解決に向けて他者と積極的に協働する姿勢や、責任ある社会人として行動する倫理的態度を身につけることを目指す。

教育方法

- ①基礎ゼミナールと専門ゼミナールは、少人数で特定のテーマについて専門文献を精読し、個人発表やグループ発表、討論を中心として主体的・相互的に学びを深める形式で行う。専門ゼミナールは3・4年生合同で行い、2年間をかけて卒業論文・卒業研究に取り組む。各自の学習状況について教員がきめ細かく把握する観点から、ゼミ担当教員が担任となって個別に必要なサポートを提供する。

②基礎知識を学ぶ講義形式の科目では、講義内容を確実に習得するために、繰り返し視聴できるオンデマンド動画やリアクションフォームの活用などを通じて、講義内容に学生の質問を反映させながら双方向型に近い授業を行う。

③本学における臨床心理教育の伝統と強みを活かし、演習・実習形式による体験型の授業を多く実施する。心理検査や傾聴技法を体験しながら習得する科目、心理学実験や心理調査の結果を分析するために統計ソフトを操作する科目、学外で長期間にわたって実習する科目などを設定し、より実践的な技能、判断、倫理観などの深い理解を目指す。反転授業やグループ作業なども数多く取り入れ、学生相互の主体的な学びを促進する。なお、講義形式の科目でも、頻繁にグループ・ディスカッションを行う。

評価

①4年間の学習の総括として卒業論文・卒業研究に取り組み、その成果については主査・副査を中心とする口頭試問によって評価する。また、学生自身によるルーブリック評価も実施する。

②講義科目においては、期末テストだけでなく、小テストや小レポートの活用により複数の基準を用いて知識の習得状況や学習成果を総合的に評価する。

③学外実習の評価については、毎回提出される実習活動記録の内容、実習先の実習指導講師の評価、実習報告会での報告内容を含めて総合的に評価する。また、学生自身によるルーブリック評価も実施する。

④カリキュラムアセスメント及びカリキュラム改善のため、学生や実習先の実習指導講師にアンケート調査を実施し、教育内容や教育方法の改善に取り組む。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/human_studies/clinical_psychology/)

（概要）臨床心理学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能

①臨床心理学部の教育内容を理解するために必要となる高等学校卒業相当の知識・技能を修得しており、高等教育を受けることができる学力が備わっている。

②高等学校での学習や諸活動において課題や困難に向き合い、解決のための試行錯誤を通して得た経験を有している。

思考・判断・表現

③高等学校までに得た知識・経験を臨床心理学部の学びに結びつけて説明することができる。

④自身の興味関心について、自らの視点と言葉で順序立てて説明することができる。

関心・意欲・態度

⑤新たな知識や他者の意見に触れることに喜びを感じることができる。

⑥価値の多様性に触れたとき、自らの意見を見直す開かれた姿勢を持っている。

⑦社会の様々な事象を自らの問題として捉え、他者と協力して積極的に課題解決する意欲を持っている。

学部等名 人間学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて

https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)

<p>(概要) 人間学部は、現代社会における今日的課題に対し、主体的・積極的に対峙する能力及び多様な価値観を尊重しつつ他者と協働して解決に導く能力を備えた人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_human/)</p>
<p>(概要) 人間学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学科において学位授与方針を定めています。それは、本学の教育ビジョン・建学の精神「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」(「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる)という言葉の中に、その基本的精神と願いが表現されています。</p> <p>人間学部では、常に変化する現代社会にあって、日常生活において自ら考え、行動する能力を有すると同時に、さまざまな問題を課題として発見し、解決するための能力と行動力を備えた学生に学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_human/)</p>
<p>(概要) 本学では、教育ビジョン「4つの人となる」ために、幅広い教養と学びの技法を身につけるための共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。人間学部においては、各専門分野の知識・技能を身につけ、生涯学び続けていく意欲と関心を養うために、基礎ゼミナール、専門別のゼミナール、実習を中心としたカリキュラムを編成しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/dept_human/)</p>
<p>(概要) 本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。</p> <p>人間学部においては、高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・外国語について高等学校卒業相当の知識と技能を有し、自らの体験について筋道を立てて自分の言葉で表現する力とともに、自らの学びを通じて人々や地域社会に積極的に関わっていこうとする意欲を持つ、資質・能力を備えた学生を求めます。</p>

<p>学部等名 人間学部 社会福祉学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)</p>
<p>(概要) 社会福祉学科では、人や地域、社会に対して積極的に貢献できる福祉マインドと現場の諸課題を解決する能力をもったソーシャルワーカーの養成を目的とする。このため、学内外での多様な人々との学び合い等、地域や社会に働きかける社会福祉実践を通じて、多様な価値観を認め、他者との関係形成や自身の言動について省みる力を身につけた人材を育成する。</p> <p>社会福祉学科において養成する人材は、社会福祉施設職員、公務員、医療機関職員等の福祉専門職として活躍するほか、福祉機器、住宅・建築、介護サービス等の福祉関連企業においてもその能力を活かすことができる。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/social_welfare/)</p>

(概要) 社会福祉学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、社会福祉学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ①福祉マインドを持つ人材としての思想や指針となる理論、支援に役立つ知識・技術を理解するために必要な読解力、記述力及び学びの方法を身につけている。
- ②地域共生社会の実現に向け、社会福祉学の価値・知識・技術を人と社会に対する支援に活用する方法を身につけている。

思考・判断・表現

- ③学んだことを生かして、自らの生き方及び果たすべき役割や責任について考察を深めることができる。
- ④社会福祉学領域の研究や方法を通じて、地域社会や身近な人々の間で生じている問題を発見し、その解決方法を判断し、改善を図ることができる。
- ⑤学んだ知識について、自らの考えを他者に対して的確に表現することができる。
- ⑥知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑦社会福祉学の学びから学習や研究課題を設定し、主体的に取り組む姿勢を有している。
- ⑧他者と協働し、共生社会構築の役割を担う意欲を持っている。
- ⑨多様な人々の価値観を受け止め、円滑な人間関係を築き、チームアプローチにより目標達成に向けて努力することができる。
- ⑩グループの特性に応じて、適切なリーダーシップやメンバーシップを発揮する姿勢を有している。
- ⑪自分自身の言動を振り返り、意識的な変容の意図のもと、自身の成長につなげることができる。
- ⑫社会福祉学の価値・知識・技術を理解し活用できるよう、日々成果を蓄積しようとする意欲を持っている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/social_welfare/)

(概要) 社会福祉学科は、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、社会福祉学固有の能力と、市民性を涵養するジェネリックスキルをもつ人材養成に向けて、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

- ①基礎部門では、社会福祉学の基盤となる価値や理念を理解するための基礎的な知識、思考力・判断力・表現力を養成するために「社会福祉原論Ⅰ」「基礎ゼミナール」を配置する。また「大学入門」「ソーシャルワーク論Ⅰ」等では、福祉人材の多様な在り方を示すことで、学生が資格取得や取得する資格の種類について主体的に考える機会を提供する。
- ②社会福祉学及び関連領域の蓄積された知見に基づき、福祉マインドを備える人材となるための価値・知識を学修する科目群を専門部門に配置する。具体的には社会福祉士、精神保健福祉士の養成課程に加え、資格を取得しないが地域共生社会構築に貢献

する人材育成に関わる科目も配置し、学生の適性と関心に基づく学修の機会を提供する。

③社会福祉専門職としての技能を獲得するために、基礎部門および専門部門で学修した価値、知識を実践的に学修する実習・演習部門を配置する。

④学問の方法やアカデミックな倫理を定着させ、実践的・論理的・創造的な研究活動を表現するために応用部門を「プロジェクト研究（Ⅰ～Ⅳ）」として配置する。

⑤卒業論文、卒業研究は、基礎部門、専門部門、実習演習部門、応用部門のすべての学修を踏まえ、地域共生社会構築のための問いを立て、具体的な解決方法を検討し、言語化する。各部門で学修した成果を統合し、研究成果として完成させることで、福祉マインドをもつ人材としての能力を醸成する。

⑥国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士）の受験資格取得に必要な指定科目を基礎部門、専門部門、実習演習部門に配置する。全ての科目は、社会福祉士、精神保健福祉士の養成に十分な水準を確保する。

教育方法

①サービス・ラーニング：「基礎ゼミナール」では、地域共生社会形成に貢献する市民性涵養の基礎力をつけるため、豊島区内の社会資源と連携し、地域社会との協働に基づくサービスの経験を通じた学修を行う。

②アクティブ・ラーニング：「ソーシャルワーク実習指導」「ウェルビーイングゼミナール」「インターンシップ」では、自らの関心に基づき学習の主体となって、情報を集め、計画を立て、実施し、振り返るPDCAサイクルに基づく学修が基本となる。その学修過程で計画や実施評価について、積極的に学生同士や教員、実習指導者とのディスカッションを行い、自らの学修に関して気づく機会を提供する。

③プロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）：「プロジェクト研究（Ⅰ～Ⅳ）」は、学問の方法や研究倫理等を踏まえ、課題解決を志向した実践的・論理的・創造的な研究活動をゼミナール形式で2年間を通じて進める。

④当事者との積極的な協働：サービス・ラーニングや実習・演習科目だけでなく、講義科目も含めて積極的に当事者、活動家、実践者をゲスト講師として招聘し、具体的かつ現実的な知識の教育の機会を提供する。これは具体的な学修の機会の提供だけでなく、当事者や実践者と協働して教育を行うことで、より効果的かつ実践に即した学修方法の検討や実践と理論の乖離を軽減することも意図している。

評価

①4年間の総括的な学修成果として卒業研究を課し、その成果を発表する場として口頭試問審査発表会を開催する。グループで協働・分担したプロセスや作成した成果物に対しては、複数の教員の合議に基づき、DPの達成状況を総合的に評価する。

②カリキュラム改善のため、学期ごとに学生の成績や授業への参加態度を確認するほか、卒業時にはカリキュラムルーブリックに基づくアンケートを実施し、教育内容や方法の見直しを行う。また、DPに基づいた教育活動を、効果や効率的観点を踏まえながら組織的に推進する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/social_welfare/)

（概要）社会福祉学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能

①社会福祉学科の学びに必要な基礎的な知識を有している。

②高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・外国語について内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

③課題を的確に理解し、その解決のために必要な情報を集めることができる。

思考・判断・表現

④物事を順序立てて考えることができる。

⑤多様な考え方を自分なりに整理し考察することができる。

⑥自分の考えを口頭や文章でわかりやすく伝えることができる。

⑦多様な考えや価値観を受け入れ、尊重することができる。

関心・意欲・態度

⑧文化や歴史、人間の生活に関わる様々な問題に対して、深い関心を持っている。

⑨自らの学びを通じて人々や地域社会に積極的に関わっていかうとする意欲を持っている。

⑩読む・書く・話す・聴く能力の向上と、わかりやすい表現方法の習得に意欲を持っている。

⑪他人の立場に立って物事を考え、行動する態度を有している。

⑫人と心を通わせ、協力して目標を達成する姿勢を有している。

学部等名 人間学部 人間科学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて

https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/）

（概要）人間科学科では、人間科学の幅広い知見と高い公共性を身に付け、時代の変化に積極的に対応し、自ら課題を発見・解決できる人材の養成を目的とする。このため、社会学や心理学及び身体科学を中心とした分野から人間の「Life」を複眼的に学び、複雑性や多様性が増す現代社会を解釈・分析するための総合的能力を身につけた人材を育成する。

人間科学科において養成した人材は、こうした能力を活かした多様な進路が期待でき、人と接することやライフサポートを希望する者は商品販売・保健住宅・販売等で、修得した分析力や説得力を活かしたい者は広告や出版・IT業界・商品企画や販売計画等の分野への就職が想定される。また、グループワークで培った自らの考えを伝える力、グループをまとめる力は、幅広い職業で活かすことができる。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/psychosocial/human_sciences/）

（概要）人間科学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していかうとする学生を育成するために、人間科学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

①「Life（人びとの人生・生活）」に関して社会学・心理学及び身体科学の観点から領域横断的な知識を有している。

②人間科学に関する実験・調査・観察等の技能を身につけ、「Life」について科学的にアプローチすることができる。

思考・判断・表現

③「Life」について複眼的に思考し、それに基づいて判断できる。

④根拠に基づいて論理的に表現することができる。

⑤知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

⑥「Life」に関する多様な課題に関心を抱き、自ら調査・分析し、解決しようとする意欲を有している。

⑦今日的な課題に対して、時流にとらわれることなく、主体的な態度で向き合うとともに他者と協働して解決しようとする姿勢を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/psychosocial/human_sciences/）

（概要）人間科学科は、ディプロマポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

①基礎部門は、人間科学を体系的に学んでいくための基礎的な科目により構成する。「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、「Life」を複眼的に考察する人間科学の現代社会におけるテーマを題材とし、「読む」「書く」「聴く」「話す」の基礎技能を修得し、根拠に基づいて論理的に表現できる能力を育む。また、社会学、心理学及び身体科学について、それぞれの入門段階の基礎知識を修得するための科目を配置する。

②研究法部門では、「Life」を複眼的に理解するために、社会学、心理学及び身体科学の研究法を専門的に学び、実験・調査を通して、科学的な手法に基づいた調査研究が実施できる技能を修得する。研究法を理解し、実践するために、各学術分野の研究法、統計学、実験・調査を系統的に学ぶことによって、仮説を立て、データを収集し、実証する技能を養う。心理学における科目群は認定心理士取得の主要科目となり、社会学における科目群は社会調査士の主要科目としても位置付けられる。

③専門部門は、「人間発達科目」「現代社会生活科目」「演習科目」から構成される。「人間発達科目」「現代社会生活科目」では、人間が受胎してから死に至るまでの変化、あるいは現代社会における様々なテーマについて社会学、心理学及び身体科学から領域横断的に学ぶことにより、そのあり様を理解する。「演習科目」では、人間科学における実証的な研究を行うために必要な論文を読み、「Life」に関する課題に対して、仮説設定、データ収集量的・質的な分析、考察という科学的な研究を学生が主体的に行うことにより、学術研究の基礎技法を修得する。

④基礎部門、専門部門における所定の科目を履修することにより、社会調査士、認定心理士、認定心理士（心理調査）の資格を取得することができる。

⑤卒業論文では、①～④の学習を踏まえて、「Life」に関する今日的な課題について自ら問いを立て、実験・調査等の科学的な手法を用いてデータを収集し、論理的に問いへの解を導く。

教育方法

①アクティブ・ラーニング：演習科目（基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、心理学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ、身体科学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ）を中心として、他者との協働によって問題解決に取り組んだり、発表したりする機会を設ける。

②少人数教育：演習科目や卒業論文の個別指導等において、専門的な知識や技能を身につけるために少人数の学習を行う。専門演習Ⅰ・Ⅱ、心理学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ、身体科学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱが該当する。卒業論文については、その学習成果を概要集としてまとめたり、発表したりして表現する。

- ③ピア・インストラクション：演習科目や講義科目において、学生同士が互いの理解を深め合い、他者を尊重する姿勢を育むために、学生同士で学び合うピア・インストラクションを活用した教育を提供する。
- ④演習：基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、心理学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ、身体科学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱを通して、領域横断的な基礎知識を、より専門的で現実社会においても活用できる知識・技能に深化させる。社会調査演習では、調査を通して地域状況の把握をするだけでなく、報告書を国立国会図書館に納付し、地域・社会の総合的な発展に寄与する機会を創出する。

評価

- ①4年間の総括的な学習成果については、卒業論文に対する口述試験を通して担当教員がDPで示された資質・能力の達成状況を評価する。
- ②卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため学生生活全般に対する調査を実施し、カリキュラムを漸次的に見直す。
- ③学科教育については、本学科の学びの特徴に応じたカリキュラムアセスメントを実施し、随時改善する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/psychosocial/human_sciences/)

（概要）人間科学科は、ディプロマポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能

- ①人間科学科の教育内容が理解できるように、高等学校の教育課程において学習した基礎的な知識・技能を有している。

思考・判断・表現

- ②物事を順序立てて考えることができる。
- ③なじみのないテーマであっても、情報を整理することによって理解し、自ら意見を述べることができる。

関心・意欲・態度

- ④身近な人たち、異なる文化や価値観を持つ人々の生活や人生に多面的な関心を抱いている。
- ⑤家族や学校・地域・職場で生じている問題や、文化・環境・メディア等のあり方に関心を抱いている。

学部等名 地域創生学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて

https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)

（概要）地域創生を担うことができる資質と豊かな社会人基礎力、経済学を基盤とし経営学をはじめとする諸領域の知見をもって地域課題に対応できる問題解決力、そして地域に活力を生み出す企画構想力・実践力を備えた人材を育成する。そのために、地域課題に対応するための基礎理論や考え方を修得させるとともに、実習体験を通じて地域独自の特色ある知恵や技術に触れながら地域への関心と理解を深め、すぐれた発想（イノベーション）によって地域の新たなあり方をデザインできる能力を涵養するための教育研究を行う。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/regional_creation/ ）
（概要）地域創生学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学部において学位授与方針を定めています。それは、本学の教育ビジョン・建学の精神「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」（「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる）という言葉の中に、その基本的精神と願いが表現されています。地域社会が直面している課題を深く考え、解決に向けた地域再生の取り組みや地域価値の創造に関する知識・教養を身に着けている学生に学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/regional_creation/ ）
（概要）地域創生学部では、教育ビジョン「4つの人となる」ために、幅広い教養と学びの技法を身につける基盤教育科目と専門教育科目を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。地域創生学部においては、経済学を基礎とし、経営学をはじめとする専門分野の知識・技能を身につけ、学部の学びを実践的知識に転化するため、地域実習を行うことを軸に、カリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/regional_creation/ ）
（概要）本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。地域創生学部においては、国語、英語、地理歴史、公民、数学について高等学校卒業相当の知識と技能を有し、学びを通して地域創生に積極的に関わっていこうとする意欲がある資質・能力を備えた学生を求めます。

学部等名 地域創生学部 公共政策学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/ ）
（概要）公共政策学科が目指すのは、特に公的分野から地域においてさまざまな情報や資源を統合・調整し、地域を牽引することができるスペシャリストとしての地域戦略人材の養成である。具体的には、地域創生学部が養成する地域戦略人材の中で、公共という視点に注目し、地域固有の課題から国際的な対応が求められる課題まで幅広い視野で現代社会の直面する課題を発見し、その解決に必要となる政策や制度を構想し、実現に向けたコミュニケーションと合意形成を図る能力を備えた人材を養成する。 公共政策学科において養成する人材は、地方公務員、国家公務員、公安・消防職員、あるいは公共に係る非政府組織・非営利団体や公的セクターと協業する民間団体等において、高度化・先進化する知識集約型社会からの要請を踏まえたさまざまな政策の立案や遂行に携わることを想定している。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/public_policy/ ）
（概要）公共政策学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、公共政策学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ①社会や地域が抱える公共政策上の諸課題を解決するための政策立案に関する知識・教養を身につけている。
- ②公共政策の分析や立案と実施に必要な政治学、社会学、経済学、法律学等の基礎知識を論理的に理解している。
- ③得られた知識を社会や地域の課題解決の現場における実務・実践力へと高めることができる。

思考・判断・表現

- ④自らがテーマとした公共政策上の課題を解決するための方策について、政策学等の思考を基礎として、関連する学領域の研究手法を用いて考察することができる。
- ⑤修得した専門科目が扱う手法を用いて、さまざまな公共政策上の課題を発見、分析し、表現することができる。
- ⑥他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現、伝達できる能力を身につけている。
- ⑦知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑧社会や地域において、民主的で自由な社会を支えるための公共政策上の課題を解決するためのリーダーフォロワーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を身につけている。
- ⑨学領域での学習で得た知識を活用し、公共的課題を解決するための多様なニーズに応えようとしている。
- ⑩他者と共に目標を達成しようとすることの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互の理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/public_policy/）

（概要）公共政策学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容

- ①公共分野の地域戦略人材となるために必要な政策学の基礎を体系的に身につけ、幅広い知識や技能を養うために、専門科目として基礎部門、政策領域部門、演習・実践部門を設定し、それぞれ科目群を設置する。
- ②専門科目は公共政策学を主軸とし、政治学、行政学、社会学等に連関する諸分野（政策、環境、観光、地方自治、コミュニティ等）について学際的に学ぶ。
- ③専門科目の中の実習に係る科目群では、中央官庁や各地の自治体、非営利団体・民間企業等で公共に関わる組織を対象として、現場を訪問することを通じて調査や観察を行ったり、組織の内部で実務を学ぶ研修を行ったりするなど、実践的な学修を行う。
- ④基礎ゼミナールをはじめとした演習系科目群を配置し、公共政策実習の学習を事前・事後で強化・深化させ、また4年間の集大成としての卒業研究に着実に取り組む。

教育方法

- ①基礎部門の科目群や1年次のゼミナール科目では、学生の能動的な学修と柔軟な社会性の形成を目指して、各科目の展開において少人数の学習集団編成を行い、グループ学習に取り組む。

- ②基礎部門および政策領域部門の科目群では、各科目の特性に応じてアクティブ・ラーニングもしくは PBL の手法を導入し、公共政策に係るさまざまな課題解決のために必要となる思考力・判断力を養う。
- ③公共政策実習に係る科目群では、専門科目群の中で獲得した知識・理解を再確認し、具体的な課題解決に向けたスキルを獲得することを目指して、学内における集中的な学修と、実際に地域に赴いて現場においてフィールドワークやインターンシップ型の学修を組み合わせた展開を行う。

評価

- ①学科の専門科目においては、知識や理解の定着および思考力・表現力・判断力の獲得状況を確認するため、授業内でのペーパー試験やレポート課題、口述による試験などを組み合わせた評価を行う。
- ②公共政策実習に係る科目群については、実習への参加状況のみならず、学修態度や学修姿勢、学修記録や報告書、成果発表会の資料作成および質疑応答等により、多角的かつ総合的に評価を行う。その際、複数の教員・実習担当者による協議もしくは合議を行い決定するものとする。
- ③卒業研究の遂行とその審査においては、複数の教員による口述試験を行った上で、DP に示された資質・能力等の獲得状況を学科として評価する。
- ④カリキュラムアセスメントおよびカリキュラム改善のため、インタビューなどの形成的な評価を毎年度実施することに加えて卒業時にも総括的な調査を行い、カリキュラムの改善にも取り組む。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/public_policy/)

（概要）公共政策学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した能力・資質を総合的に備えた学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能

- ①国語、英語、地理歴史・公民、数学等の各教科科目について、高等学校卒業相当の知識を身につけており、高等教育を受けることができる学力が備わっている。

思考・判断・表現

- ②自ら問いを立て、課題を解決していくための道筋を深く考えることができる。
- ③意見や価値観の異なる人々の考えと自らのその違いを客観的に表現することができる。

関心・意欲・態度

- ④社会や地域の公共政策上の課題に対して深い関心を持ち、公共政策を担う人材となることに強い意欲を持っている。
- ⑤地域の課題解決に向けて、他者との協働によって目標を達成しようとする姿勢を持っている。

学部等名 地域創生学部 地域創生学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて

https://www.tais.ac.jp/guide/info/faculty_purpose/)

<p>(概要) 地域創生学科</p> <p>地域創生を担うことができる資質と豊かな社会人基礎力、経済学を基盤とし経営学をはじめとする諸領域の知見をもって地域課題に対応できる問題解決力、そして地域に活力を生み出す企画構想力・実践力を備えた人材を育成する。そのために、地域課題に対応するための基礎理論や考え方を修得させるとともに、実習体験を通じて地域独自の特色ある知恵や技術に触れながら地域への関心と理解を深め、すぐれた発想(イノベーション)によって地域の新たなあり方をデザインできる能力を涵養するための教育研究を行う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/regional_creation/)</p>
<p>(概要) 地域創生学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、地域創生学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>①地域社会が直面している諸課題を深く考え、解決に向けた地域再生の取組や地域価値の創造に関する知識・教養を身につけている。</p> <p>②地域創生に必要な経済学・経営学等の基礎的知識を論理的に理解している。</p> <p>③学問領域で得た知識を、地域創生や地域振興の現場での実践力へと高めることができる。</p> <p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>④自らがテーマとした地域創生や地域活性化の方策について、経済・経営学的な思考を基礎として、関連する学問領域の研究手法を用いて考察することができる。</p> <p>⑤経済学や経営学の知識や手法を用いて、地域の潜在的価値や能力、課題を発見できる。</p> <p>⑥他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現・伝達できる能力を身につけている。</p> <p>⑦知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。</p> <p><u>関心・意欲・態度</u></p> <p>⑧地域社会において地域創生や地域振興のリーダーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を有している。</p> <p>⑨学問領域で得た知識を活用し、地域創生や地域活性化の多様なニーズに応えようとする意欲や行動力を身につけている。</p> <p>⑩他者と共に目標を達成することの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/regional_creation/)</p>
<p>(概要) 地域創生学科は、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。</p> <p><u>教育内容</u></p> <p>①実践知学修科目: 全国の学修の現場である地方公共団体において、行政および民間の地方創生に向けた取り組みを学び、特に東京と地方の現状を比較することから地域課題や地域資源を検証します。1年次から3年次までの第3クォーターにおいて実施</p>

される「地域実習」では、学科での理論的学びを実践的知識に転化することを目的とし、4年次の「卒業研究」に結実させていきます。

地域実習に向けた準備学修として実施される「フィールドワーク方法論」では、地域実習に取り組む態度や手法を醸成し、調査研究の具体的な調整を行い、地域実習後は実習を振り返り、報告書をまとめてプレゼンテーションを行います。

②理論学修科目：地域創生に資する専門科目として、経済学分野を主軸としつつ、経営学等の幅広い学問分野をカバーした科目を設置します。学生は多様な専門領域を自由に学修できるとともに、自らの関心の高い専門分野を中心として履修することができるようにします。

教育方法

①地域実習：地域実習を実施するとともに、巣鴨キャンパスでの学修においても綿密な指導と評価を行います。年間を通して実質ある単位の取得に向けた環境を整備します。

②アクティブ・ラーニング：特に実践知学修科目については、ディベートやグループワークを各科目の展開において多角的に組み込み、学生の能動的な学修と柔軟な社会性の形成によって、幅広い知識と汎用性の高い能力を育てます。これにより、理論科目と地域実習の相互連関を強化します。

評価

①共通教育では、幅広い教養や学習スキルの修得状況を確認するため、全学生に対してレポートの執筆を課し、学習成果を総括的に評価します。

②地域実習の評価では、地域の実習指導講師や生活指導員等の意見も取り入れ、総合的に実施します。

③4年間の総括的な学習成果については、全学生に課される卒業研究とその発表に対して、担当教員による口述試験を行った上で評価を行い、DPに示された資質・能力等の達成状況の評価します。

④学科教育の改善については、本学科の学びの特徴に応じたカリキュラムアセスメントの実施に加えて、カリキュラム改善の指標とするため、卒業時に質問紙法や面接調査法を用いた総括的なサーベイを行い、カリキュラム改善のPDCAサイクルを実質化します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/faculty/3_policy/tais_policy/regional_creation/)

（概要）地域創生学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能

①地域創生に関する学問領域を学修するために、必要な基礎学力や実技能力を身につけている。

②高等学校で履修する国語・英語・地歴・公民・数学について、高等学校卒業相当の知識を有している。

思考・判断・表現

③ものごとの課題を解決する道筋を、深く考えることができる。

④自らの意見を口頭や文章で順序立てて伝えることができる。

関心・意欲・態度

⑤地域社会に対して深い興味と関心を持ち、地域創生や地域活性化のために貢献していかうとする強い意欲を持っている。

⑥地域創生に向けて、他者との協働によって目標を達成しようとする姿勢を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにて公開

https://www.tais.ac.jp/guide/info/education_organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
仏教学部	—	8人	4人	6人	0人	0人	18人
人間学部		16人	3人	2人	0人	0人	21人
臨床心理学部		6人	5人	3人	1人	0人	15人
文学部		19人	11人	3人	0人	0人	34人
表現学部		9人	3人	7人	0人	0人	19人
地域創生学部		15人	9人	4人	2人	0人	30人
その他（附置研究所等）	—	8人	3人	4人	0人	0人	15人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		265人					420人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：本学公式ホームページにて公開 (https://www.tais.ac.jp/guide/info/ 、 https://researchmap.jp/)						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>全学的なFDについては、副学長を委員長とするFD委員会で企画・検討・実施を行っており、令和5年度は全学FDセミナーを2回開催した。1回目は、Chat GPT（生成系AI）をテーマとして外部講師を招き、Chat GPTの仕組みや教育に与える影響・留意点を学び、個人の授業や学科のカリキュラムにおける活用方法や留意点への対応について検討することができた。</p> <p>2回目は、本学の建学の理念に基づく新しい学力観（以下、学力観）の設定に伴い、学力観の育成方法をテーマとして実施した。本学の新しい学力観について理解し、自身の授業でそれらの力を育成する際の具体的な手法や評価方法について、他の教員と意見交換をおこなった。また、学科のカリキュラムにおける学力観を整理し、今後の育成方法について検討することができた。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	100人	87人	87%	466人	409人	88%	33人	28人
人間学部	185人	166人	89%	185人	166人	90%	(4人)	—
社会共生学部	—	—	—	589人	508人	86%	2人	0人
心理社会学部	—	—	—	698人	818人	117%	4人	0人
臨床心理学部	110人	103人	93%	110人	103人	93%	(2人)	—
文学部	295人	290人	98%	1192人	1272人	107%	6人	4人
表現学部	235人	211人	89%	850人	910人	107%	0人	0人
地域創生学部	200人	196人	98%	500人	483人	97%	0人	0人
合計	1125人	1053人	93%	4590人	4669人	%	45人	32人

(備考) 心理社会学部、社会共生物学部は、令和6年4月より学生募集を停止。

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
仏教学部	117人 (100%)	19人 (16.2%)	80人 (68.4%)	18人 (15.4%)
人間学部	4人 (100%)	0人 (0%)	4人 (100%)	0人 (0%)
社会共生物学部	177人 (100%)	1人 (0.6%)	157人 (88.7%)	19人 (10.7%)
心理社会学部	234人 (100%)	10人 (4.3%)	187人 (79.9%)	37人 (15.8%)
文学部	294人 (100%)	13人 (4.4%)	246人 (83.7%)	35人 (11.9%)
表現学部	195人 (100%)	0人 (0%)	171人 (87.7%)	24人 (12.3%)
地域創生学部	98人 (100%)	1人 (1%)	91人 (92.9%)	6人 (6.1%)
文学研究科 (博士課程前期)	17人 (100%)	1人 (5.8%)	8人 (47.1%)	8人 (47.1%)
文学研究科 (博士課程後期)	1人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	1人 (100%)
仏教学研究科 (博士課程前期)	16人 (100%)	7人 (43.7%)	8人 (50%)	1人 (6.3%)
仏教学研究科 (博士課程後期)	5人 (100%)	0人 (0%)	4人 (80%)	1人 (20%)
人間学研究科 (博士課程前期)	17人 (100%)	0人 (0%)	7人 (41.2%)	10人 (58.8%)
人間学研究科 (博士課程後期)	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
合計	1175人 (100%)	52人 (4.4%)	963人 (82%)	160人 (13.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画書の作成過程 <p>教務課より担当教員へシラバス作成依頼の際、授業の目的・到達目標と DP、評価方法・授業外学修などを詳細に説明した作成要項を配布している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入力・編集期間 <p>2024年1月19日（金）～2024年2月29日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスチェック <p>2024年2月11日（日）～2024年2月26日（月）</p> <p>担当の専任教員が、記入内容やシラバス入力状況を確認し、担当教員へ修正依頼を行う。</p> <p>公開日 2024年3月18日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画書の公開方法 <p>大正大学ポータルシステム【T-Po】を利用して公開している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では平成11年度からGPA＝グレード・ポイント・アベレージ（学業平均値）による学業評価システムを併用している。これはアメリカで一般的に採用されているGPAの算出方法を基本としており、日本でこの制度を導入している他大学の基準とほぼ変わらないものとなっている。これによって、他学部・学科の学生との比較が可能となる。この制度導入の理由は、学生の学期または学年等、一定期間の履修と学習の状況を掌握することによって、個人別に適切できめ細やかな履修・学習アドバイスを可能する客観的なデータとなる。具体的には、それぞれの評価に一定のポイントを設定し、不合格科目を含めて履修科目のAベレージを算出する。詳細については履修要綱、大学ホームページにてGPAを導入している旨、その算出方法を公表している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
仏教学部	仏教学科	124 単位	有・無	単位
文学部	日本文学科	124 単位	有・無	単位
	人文学科	124 単位	有・無	単位
	歴史学科	124 単位	有・無	単位
表現学部	表現文化学科	124 単位	有・無	単位
	メディア表現学科	124 単位	有・無	単位

人間学部	人間科学科	124 単位	有・無	単位
	社会福祉学科	124 単位	有・無	単位
臨床心理学部	臨床心理学科	124 単位	有・無	単位
地域創生学部	地域創生学科	124 単位	有・無	単位
	公共政策学科	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.tais.ac.jp/guide/info/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
令和3年度 以降 入学者 仏教学部	仏教学科	850,000円	200,000円	350,000円	施設設備費、教育充実費
令和6年度 以降 入学者 仏教学部	仏教学科	950,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
令和3年度 以降 入学者 文学部	人文学科	850,000円	200,000円	350,000円	施設設備費、教育充実費
	日本文学科	850,000円	200,000円	350,000円	施設設備費、教育充実費
	歴史学科	850,000円	200,000円	350,000円	施設設備費、教育充実費
令和6年度 以降 入学者 文学部	人文学科	950,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
	日本文学科	950,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
	歴史学科	950,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
令和3年度 以降 入学者 心理社会学部	人間科学科	850,000円	200,000円	350,000円	施設設備費、教育充実費
	臨床心理学科	850,000円	200,000円	350,000円	施設設備費、教育充実費
令和6年度 以降 入学者 人間学部	社会福祉学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
	人間科学科	950,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
令和6年度 以降 入学者 臨床心理学部	臨床心理学科	950,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
表現学部	表現文化学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
令和6年度 以降 入学者 表現学部	表現文化学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
	メディア表現学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
社会共生物学部	公共政策学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
	社会福祉学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
地域創生学部	地域創生学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
令和6年度 以降 入学者 地域創生学部	地域創生学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費
	公共政策学科	1,000,000円	200,000円	250,000円	施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 経済面では、日本学生支援機構の奨学金対応、民間団体や公共団体からの奨学金の案内のほか、大学独自の給付型奨学金を設けている。 https://www.tais.ac.jp/life/scholarship/

<p>学修の面では基礎学力向上や大学共通科目の支援を総合学修支援機構にて展開している。 https://tais.ac.jp/faculty/dac/</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) キャリアセンターを中心に各学科と連携し、学生一人ひとりに対するきめ細やかな就職支援を通じて、就職活動に対する意識醸成や企業研究、面接試験対策など実践的な取り組みを実施している。 https://www.tais.ac.jp/job_carrer/promotion/</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保健室 全学健康診断受診アナウンスや健康診断の結果をもとにした健康相談などを実施している。 https://www.tais.ac.jp/life/support/health/ ●ハラスメント ハラスメント防止部会を設置しその冊子の作成、ハラスメント防止キャンペーン等啓蒙にあたっている。また、学外相談窓口を設け、匿名報告システムを導入している。 https://www.tais.ac.jp/life/support/sh_measures/ ●障がい学生支援について 方針を策定し、支援学生スタッフを募集、育成しノートテイク等で支援にあたっている。 https://www.tais.ac.jp/life/support/special-needs/ ●学生相談室 医療機関としてではなく人間関係や家族関係、意欲がわからないなど一人で抱えきれないことに関しての相談をしている。 https://www.tais.ac.jp/life/support/student_consultation/ ●キャンパスソーシャルワーカー 様々な悩みを抱える学生のサポートをするスタッフとしてソーシャルワーカー（精神保健福祉士・社会福祉士）を配置している。 https://www.tais.ac.jp/life/support/health/blog/20240401/86658/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.tais.ac.jp/guide/info/</p> <p>備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。</p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103171
学校名 (〇〇大学 等)	大正大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人大正大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		471人	464人	499人
内訳	第Ⅰ区分	281人	275人	
	第Ⅱ区分	122人	123人	
	第Ⅲ区分	68人	66人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				－
合計 (年間)				504人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	-	人	人
計	15人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	80人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	58人	人	人
計	138人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。